

平成18年12月10日発行

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県三方上中郡若狭町熊川

TEL/FAX (0770) 62-0330

熊川宿ホームページ<http://kumagawa.wks27.jp>

鯖街道 熊川宿



熊川いっぶく時代村（平成18年10月15日撮影）

賑わいました！熊川いっぶく時代村

秋祭りの定番となった「熊川いっぶく時代村」は、通算七回目を数え、爽やかな晴天に恵まれ大勢の人で賑わいました。

撫子太鼓で幕開けし、蔽かに山車の巡行が行われました。続いて子どもたちに人気の「フリキの金魚レース」がスタート、前川沿いに歓声が上がりました。

三年ぶりに復活した「駕籠屋でござるin熊川宿」では、町並み調査中の関東学院大学二チームを含む八チームが出場し、大変盛り上がりしました。タイム部門で関東学院大学Aチームが、パフォーマンス部門で嶺南病院チームが見事優勝しました。

食のおもてなしでは、葛湯やつくたてのお餅が振る舞われ、バザーなどの屋台や各商店の店先も賑わいました。

最後は、瓜生大神楽の珍芸に笑いと拍手が沸いていました。また人力車や引き馬、虚無僧も出て、昔ながらの宿場町の風情も味わえる祭りでした。

目次

賑わいました！熊川いっぶく時代村……1
寄稿文・話題……2・3
マスタープラン策定ほか……4
熊川いっぶく時代村……5
活動報告・川柳……6

ふるさと熊川に帰って十年

熊川まちづくりマスタープラン策定委員会

委員長 岩本 実

私達家族が、大阪から熊川へ帰って来たのは平成八年三月のことです。子供は小学校五年の男子と、小学校二年生になる女の子の二人でした。家内や子供たちは、熊川で生活するのは初めてで、少人数の小学校に戸惑いもありましたが、すぐに友達もでき都会にない自然を満喫していた頃を思い出します。大阪から熊川へは、車なら三時間ほどで帰ってくるのが出来、五月のお祭りや夏は海水浴、冬にはお正月の休みを利用し帰省しておりまして。そのころに父から、重要伝統的建造物群保存地区選定の話も聞いておりました。が、「へえー」と思うくらいで、あまり気にもしていませんでした。しかし、この熊川も昔は宿場町として栄え、すごいところであつたことを聞きまし

た。今で言うブランド（大型量販店）みたい何でも揃う町で、映画館やパチンコ屋があった事には驚きました。熊川の歴史についてまだまだ知らない事がたくさんありますが、これから少しずつ勉強して行きたいと思っております。

さて、熊川が重伝建の選定を受けたのも平成八年、私達家族が熊川へ帰ってきた年と同じで、十年目と言う節目の年でもあります。また、当初策定された「熊川まちづくりマスタープラン」からも十年が経過し、熊川全域の景観整備事業も完了となりました。年々老朽化が進む家々も順次改修が進むにつれ、益々この美しい町並みに磨きがかかることではしょう。ここに至るまでには、諸先輩をはじめ多くの方々の努力や行政のご尽力に感謝し、この町並みを持続していかなければと思っております。

そこで、これからの熊川の自立と継続的な発展を目指すた



上ノ町の町並み

私と熊川

尾 卯三郎 平 若狭町の語り部 (小浜市加茂)

熊川、この町を初めて訪れたのは昭和二十七年末の事である。先ず、ご先祖の墓所得法寺であった。義父母は熊川での平尾家のことや、自分等の過去は一切語らず、義父等は語れない過去が有るのかと想像したが、次第に判ってきた。

長、地区飲食店組合長をし、宮川に疎開、終戦、茅屋で食品等を商い糊口をしのいでいた。義父母が他界、家財道具を整理、淡紙に包んだ六十余通の古文書を発見、読めぬ文字を苦心の末見ると、藩庁への願い書、米、蠟燭、菓子、紙、葛の商いのものである。故亀井清先生に解説を頂いた。文書によると我が家の歴史が垣間見えてきた。初代は享保十一年（一七二一）新助の名が見え、以後庄五郎を名乗り代々襲名した。

昭和初期に家業倒産、一家離散、今津をふり出しに飲食店を営業し転々、大阪市内で町内会

文書によると天保十三年五月、町年寄り月番問屋二十四名に名を連ねていた。（熊川御用日記）天保



この美しい町並みの熊川宿を、次世代に伝え持続発展させるため、住民の皆様の積極的な意見や実行力に期待をしております。

最後になりましたが、マスタープラン策定にあたり若狭町教育委員会にはアンケートの集計、資料作成など大変お世話になっております。今後ともご指導の程、宜しくお願い致します。

熊川宿に思うこと

兼田 誠之助

今日まで人生の七割強五十余年の京都での生活、年に数回の帰省で町並みの外観のよさは知っていましたが、いざ熊川での腰をすえた生活となるととまどう事ばかり。生活習慣の違い、考え方の違い、いろいろな面で短時間で馴染みにくい事がいっぱい。共通の話題も少なく、地に足が着くのはもう少し先かなあと現在の私の実感です。

まだお名前も顔もわからぬまま老人会の支部長をおおせつかり無我夢中の一年でした。皆さまには大変親切にして頂き感謝しています。それと非常に感じた事は、皆さまがとつても郷土愛に燃えておられると言う事、私も何年かしたらそうなりたいと思っています。

永年の骨身にしみた京都での生活習慣、一年余りではとても解消されそうにないような、特に趣味のない私、一人で野山歩きを一番の楽しみにしています。今年は熊が少々気になります。

この秋は、くるみやギンナンをたくさん拾ってきたりして、そのような毎日です。

皆様にはお役に立たない事ばかりですが、よろしく願います。この原稿、町並みの感想と言う事でしたが、まだまだ何もわからず、現在の私の心境を思ったままに書きました。あしからず。これからも私の出来る範囲で町の美化に努めてまいりたいと思っています。いろいろとご迷惑をおかけする事があるかと思いますが、よろしく願います。



熊川宿ホームページ開設

熊川区では熊川いっぶく時代村を前に「熊川宿公式ホームページ」を開設しました。時代村のPRや熊川宿の由来、各団体の活動を紹介しています。今後は、新着情報やリンク集などを充実していきたいと思ひます。



<http://kumagawa.wks27.jp>

国土交通省のホームページ
地域いきいき観光まちづくり100に
熊川宿が掲載

「元気なまちづくりで地域の活性化」をコンセプトに、政府が進める観光立国の実現に向けて、今、日本各地で様々な取り組みが行われています。このような地域の取り組みを紹介し、観光地づくりの参考となる事例がホームページにまとめられています。



<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/kanko100/>

町並み通信「鯛街道熊川宿」
キャッチフレーズ選考結果

町並み通信キャッチフレーズ募集に、28作品の応募がありました。若狭町教育委員会及び広報委員会で審査・協議の結果、次の方の作品を基に「いにしえと未来を結ぶまちづくり」に決まりました。

田中昭二様 (若狭町熊川)

山田武男様 (若狭町熊川)

キャッチフレーズは今号より表紙を飾っています。

十一年九月十九日若狭国十二代藩主酒井忠義が総勢二百九十四名を連れ熊川を訪れた時、御小納戸役須田熊次郎、山崎方次郎以下九名の下宿(宿)を命じられていた。(熊川御用日記) 銀子何処目など商業関係は多数あるが、最も新しいものでは明治三十八年池河内小畑岩次郎に太興寺渡し玉葛正味四貫八百入り五十箱を購入、又小畑岩次郎に江州朽木市場渡し葛根(葛原料)千貫を買い取っている。往古の熊川宿の繁栄が窺われる。

歴史好きの私、熊川宿の先輩諸氏より色々なことを学び、国境の宿場町に数多くの歴史を秘



めているのを知った。国指定を受け御光を浴び全国的に益々その名を知られることであろう。現在語り部の末席を汚している。

第二次 熊川まちづくりマスタープラン 中間報告

H18.10

熊川まちづくりマスタープラン策定委員会

はじめに

第二次熊川まちづくりマスタープランは、住民みずからが、熊川の自立の方策を明らかにするとともに、熊川の持つ資源のさらなる活用を進め、持続可能な発展をはかることをめざして策定されることになりました。まちづくり特別委員会を中心に組織された十五名の策定委員が八月から五回の会議を重ね、今後のまちづくりの方針と具体的方策について議論してきました。特にまちづくりアンケートの結果や都市再生モデル調査事業でお世話になった大学の調査報告等を参考に話を進めてきました。

この中間報告では、これまで議論を進めてきたなかで、基本目標の達成のために特に重要と思われるプランについて報告させていただきます。策定委員会では、今後これらのプランをどのように具体化していくかについて議論を進めていきたいと考えております。

(中間報告書より)



まちづくりマスタープラン策定委員会

【基本目標】

一、熊川に住むすべての人が幸せで快適な生活をおくれる環境づくり

二、熊川の資源を活用し、まちづくりを継続できるしくみづくり

【プランの概要】

- 一、町並み・景観
- 二、生活環境・防災
- 三、地域資源・地場産業
- 四、まちづくり・観光

これらについて、区総代会、区役員会、まちづくり委員会、区内

回覧にて中間報告を行いました。

現在、若狭町教育委員会のバックアップのもと、さらに詳細について協議、検討を進めています。

全国都市再生モデル調査 熊川宿活性化モデル調査



意見交換会

住民と大学との協働による鯖街道熊川宿活性化モデル調査で、関東学院大学工学部社会環境システム学科の昌子住江教授、斉藤俊幸講師、学生五名が来訪、熊川の住民を対象にヒアリング調査が行われ、報告と意見交換会が開かれました。



得法寺お月見踊りにて

得法寺のお月見踊りで、熊川音頭も体験されました。

現在、さらなるまちづくりに向けて住民アンケートが実施され、調査・研究が進められています。また、まちづくりマスタープラン策定の一環として、昌子先生、斉藤先生の指導をいただいています。

日本風景街道

(シーニック・バイウェイ・ジャパン)

日本風景街道とは

自然、歴史、文化、風景などをテーマとして、「訪れる人」と「迎える地域」の豊かな交流による地域コミュニティの再生を目指した美しい街道空間の形成を基本方針としています。



視察調査

7/13

日本風景街道調査団が熊川宿へ視察調査に来られました。中間報告として、松田裕子先生が日本風景街道「鯖街道」に関するコメントを出されています。

国土交通省・日本風景街道ホームページ
<http://www.hido.or.jp/kyuukeikaidou/>

9/19

日本風景街道近畿地区交流会(大阪)にまちづくり委員会から代表が出席しました。

近畿各地区の関係者が集まり、活動報告や意見発表をして交流を深めました。

第7回 熊川いっぶく時代村

と き：平成18年 10月15日(日)

と ころ：鯖街道熊川宿一帯

主 催：熊川いっぶく時代村実行委員会

司 会：曾我穂家裕輔



山車巡行



三年ぶり復活
駕籠屋でいっぶく
の熊川宿



リハーサル風景(前日)

7/18

近江八幡堀割協議会に出席

堀割協議会は、現在八自治体、十一市民団体の計十九団体で構成されています。今回の総会に、若狭町から杉谷正美教育長、熊川宿まちづくり委員会の代表が出席しました。

「近江八幡の水郷」は今年一月、国の「重要な文化的景観」第一号に選定されています。



7/28

歴史を学ぶ勉強会(文書の里の会)

NHK大河ドラマ「功名ヶ辻」を通して、戦国史や大河ドラマを楽しむコツを宮下市郎先生より学びました。

①俳優の顔と名前を覚える。
②脚本家・時代考証人を覚える。
③熊川や若狭との関連を調べる。

十月二十五日には続編が開かれました。佳境を迎える物語をより一層楽しめそうです。



8/15

熊川宿納涼盆踊り

残暑厳しい今年の盆踊りは、流行踊り、江州音頭、てっせん踊りと続き、熊川音頭では日頃練習している伝統芸能保存会のメンバーが音頭を取り、子どもから大人まで大きな踊りの輪ができました。

帰省中の親子連れも多く見られ、焼きそばやヨーヨーつりなどの屋台も賑わいました。



9/15

浄土寺川ダムと三国の町並み研修

(熊川区ダム対策特別委員会 共催)
若狭熊川宿まちづくり特別委員会

建設中の浄土寺川ダムを見学しました。河内川ダムと目的や規模がよく似ていることもあり、果敢に質問が飛び交っていました。将来の河内川ダムをひと足早く見るような気がしました。



田森田銀行本店

越前竹人形の里で昼食をとり工房を見学、三国では自由行動となり、みくに龍翔館や三国祭りの山車蔵、漆喰造りが見事な旧森田銀行本店を見学しました。

帰りの車中では、山田武男宴会部長の送司会(?)でカラオケを楽しみました。

10/16

厳かに松木神社例祭

若狭町議会議員や町関係者が参列して、松木長操先生の遺徳を顕彰する祭礼が行われました。神事、献茶が執り行われ、詩吟と舞いが奉納されました。

女性の会とまちづくり委員の贈いで、大豆入りのおにぎりや「長操なべ」が参列者に振る舞われ好評でした。



川柳で町並み散歩

受話器から
遊ぶ想い出 里の秋
株だから
笑って、くらえ 攻防戦
紅葉の香りセソウ
スケッチ台
紅葉にコントラストな
霜の朝
功

あとがき

晴天の下開催された「熊川いづく時代村」は大勢の方にお越しいただき、盛況のうちに終えることができました。

関東学院大学の昌子住江教授や学生さんが、熊川宿を調査され、報告と意見交換会がありました。また、得法寺のお月見踊りや、いづく時代村の準備、駕籠担ぎレースに積極的に参加され、有意義な交流ができました。

マスタープラン策定では、住民アンケートをまとめた中間報告が発表されました。現在、さらなるまちづくりに向けて協議が進められています。

日本風景街道の報告で、熊川宿は鯖街道の中でも中心的な役割であることを再認識しました。今後は、街道全体の景観や道路の整備が期待されます。

町並み通信は今号より表紙タイトル部に公募で選ばれたキャッチフレーズが入りました。

編集委員